

防護柵設置仕様書

(作業順序)

- 1 地拵、植付、防護柵設置を一括契約した場合は、植付に着手する前に必ず防護柵を設置し監督職員の確認を受けなければならない。

(支柱の固定)

- 2 風及び積雪等により支柱が傾斜しないようしっかり固定すること。
- 3 支柱の設置箇所は、凹凸がある場合、ネットの高さを確保するため、凸部分に設置すること。(別図1)
また、植栽区域より斜面の上部にネットを設置する場合は、傾斜変換し緩やかになった箇所に設置する。
- 4 支柱は作業を進める方向に若干傾けて打ち込み、ネットを固定する際、張りロープを進行方向の逆方向へ力をかけて引っ張り、張りロープの張力で支柱を垂直に固定する。(別図1)
- 5 力がかかる支柱や土質が不安定な箇所では、必要に応じて控えロープにより支柱の安定を図る。
また、柵の安定を図るため必要に応じ控えをとること。(別図2)

(立木支柱の使用)

- 6 隣接する国有林の生立木を防護柵支柱としてできるだけ利用することとし、胸高直径6 cm以上で傾きのない根張りの良い木を利用する。
- 7 立木支柱と立木支柱との間隔は6 m未満とする。6 m以上となる場合は、間に人工支柱を配置し、各支柱間の距離が3 m程度以下となるようにする。
- 8 立木支柱とネット上張りロープとの連結は、「立木支柱への防護柵上部ロープの結わえ方」のとおりトックリ結びによること。

(ネット下部の固定)

- 9 ネットと地面とに隙間をつくらないう、アンカーを打込み、ネットの下部や押さえロープを固定する。
- 10 アンカーを設置する場所は、人力によって抜ける場所は設置しないこと。

(ネットの張り具合)

- 11 ネット上部の張りロープは、弛みが生じないよう固定することとするが、ネットについては若干弛みをもたせること。
- 12 適切な張り具合の目安として、垂直方向に目数が確認できること。
- 13 急傾斜地において、ネットの荷重により斜面下部にネットが必要以上に引っ張られる場合は、それを防ぐために結束バンド等でネットの上部と張りロープを固定する。

(出入口の設置)

- 14 「簡易扉標準図」のとおり、簡易扉を設置すること。
- 15 簡易扉の設置位置が分かるように任意のマークにより標示すること。

16 設置位置については、監督職員の指示に従うこと。

(枯損木の伐倒)

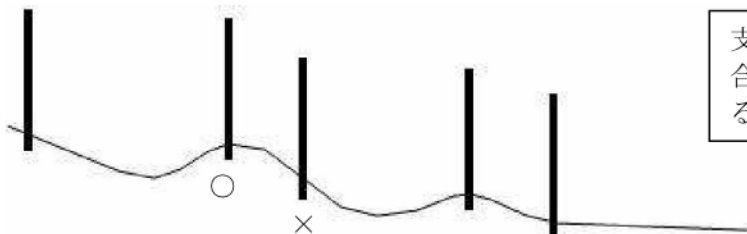
17 防護柵に倒れ掛かる恐れのある枯損木がある場合は、伐倒し、植付及び防護柵設置の支障とならないように処理すること。

(その他)

18 その他必要事項については、監督職員の指示に従うこと。

(別図 1)

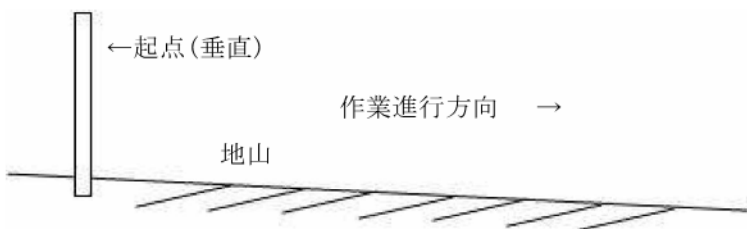
支柱の設置個所



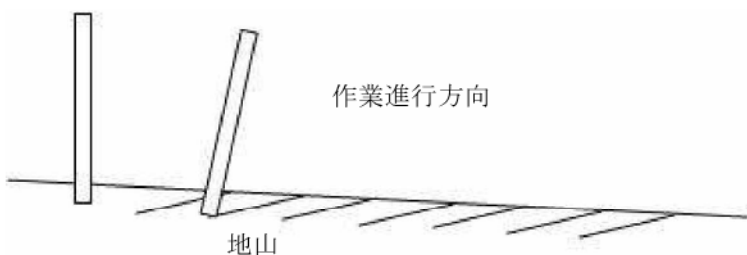
支柱の打込箇所は地山の凹凸がある場合、ネットの高さを確保するため、できる限り凸部分に打ち込む方が良い。

(支柱の間隔は 3 m で)

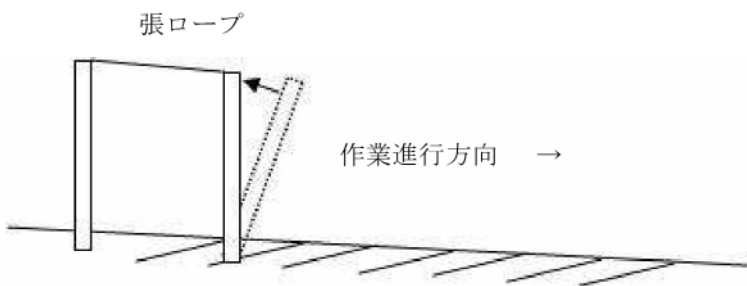
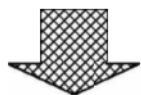
支柱の固定方法



ネットの設置は斜面上方から下方へ進める方が作業は容易である。



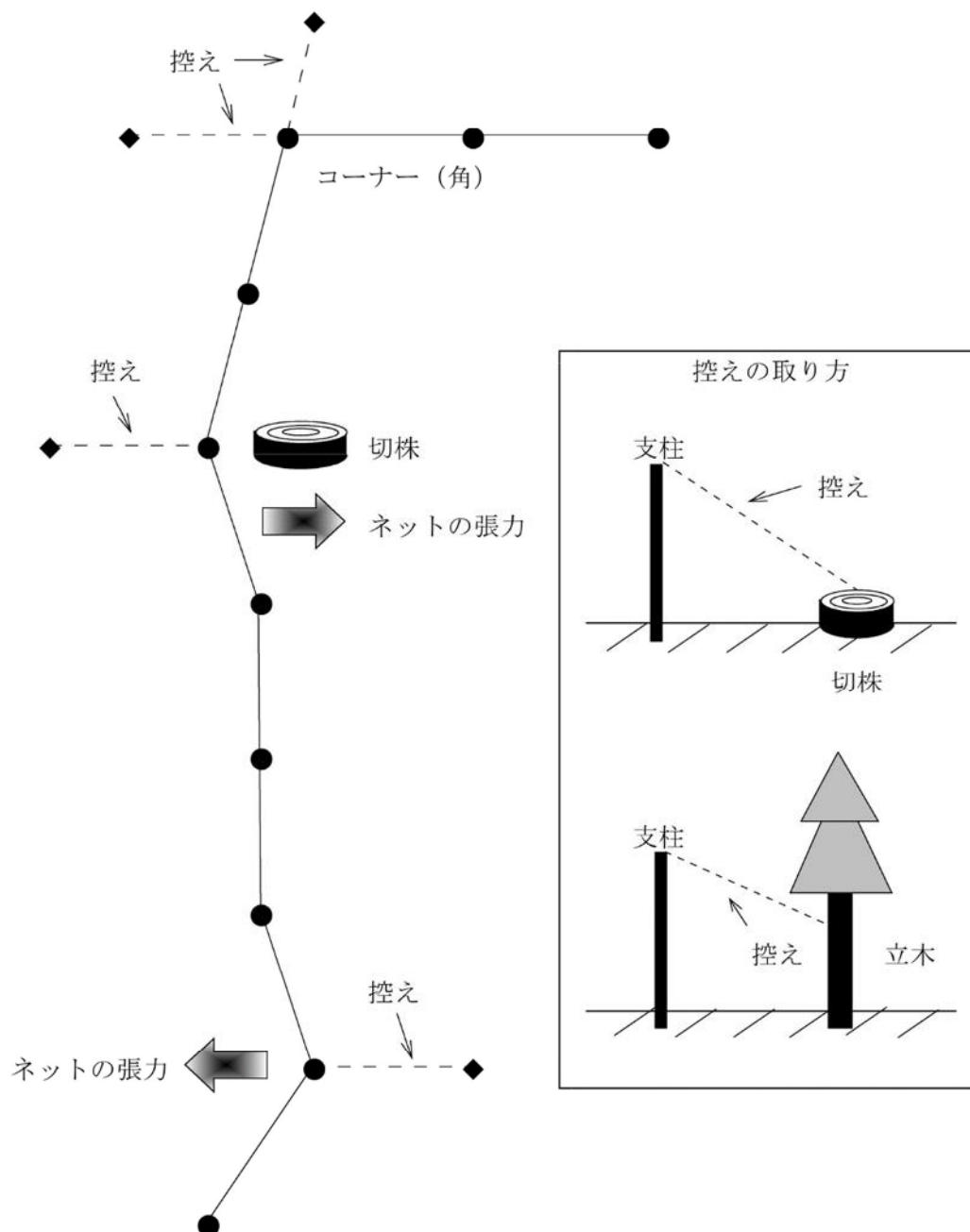
支柱は作業進行 (斜面下方) 方向へ傾けて打ち込む。



ロープの張力により支柱を引き起こし垂直 (最もネットが高く) に仕上げる。

(別図 2)

控えロープの設置方法

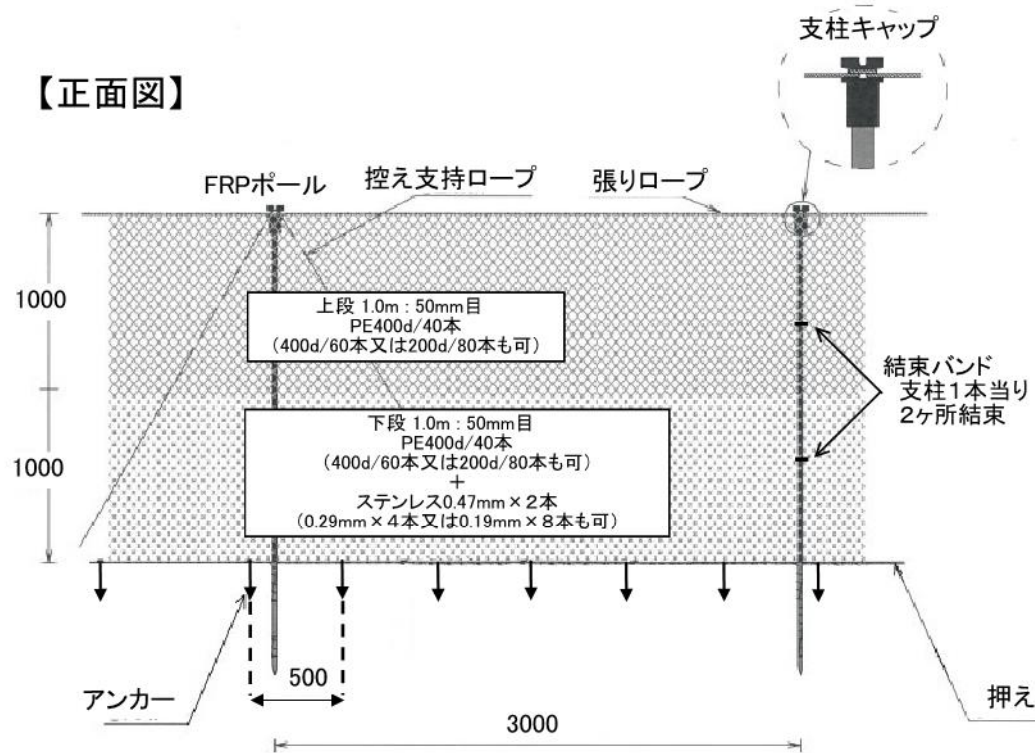


防護柵設置標準図

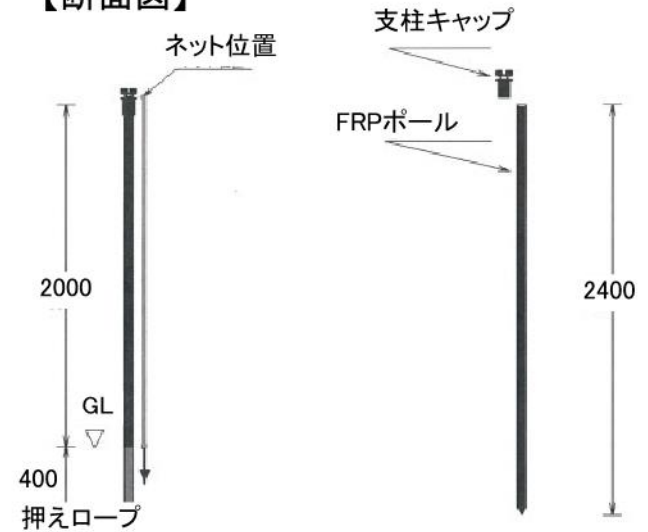
【平面図】



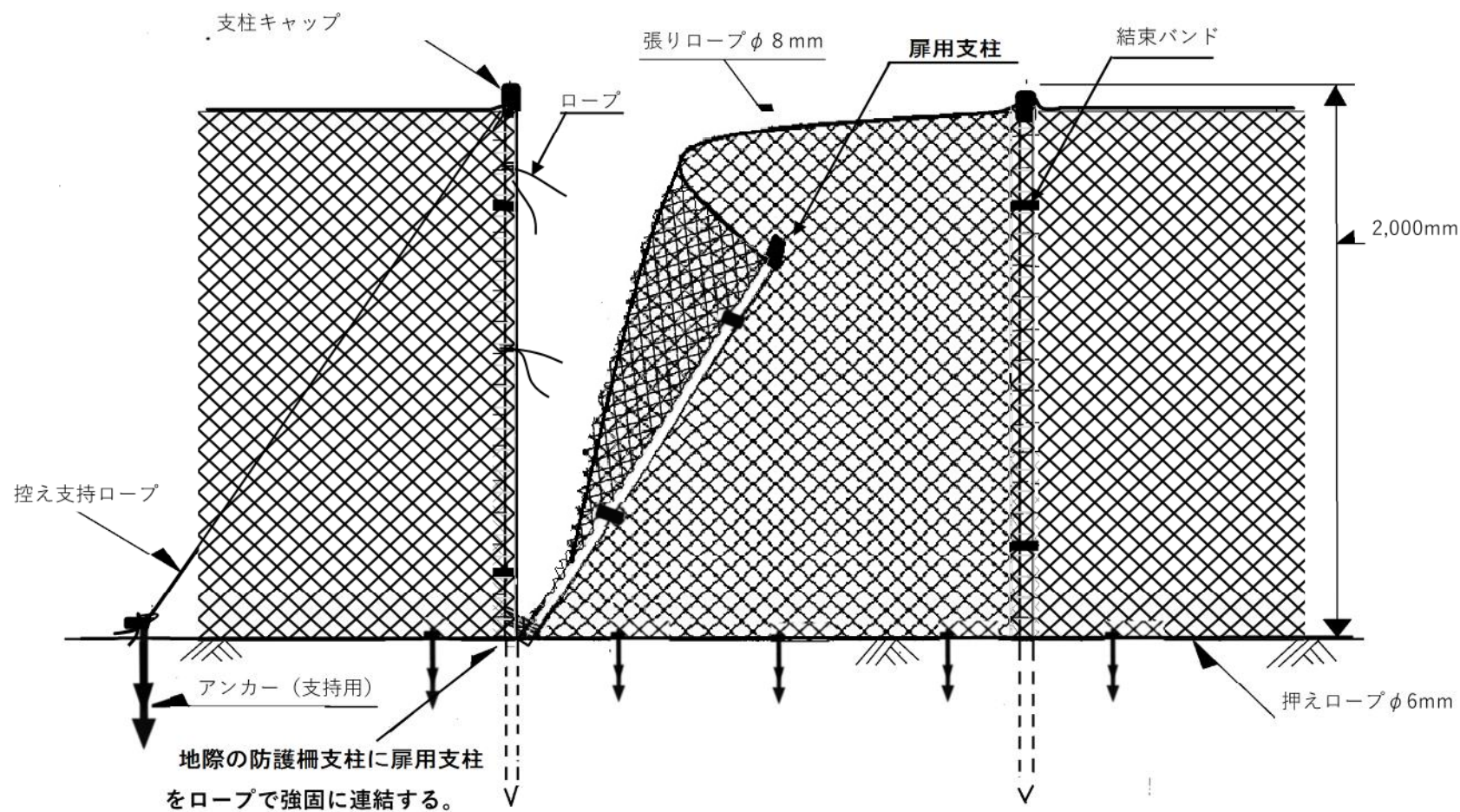
【正面図】



【断面図】

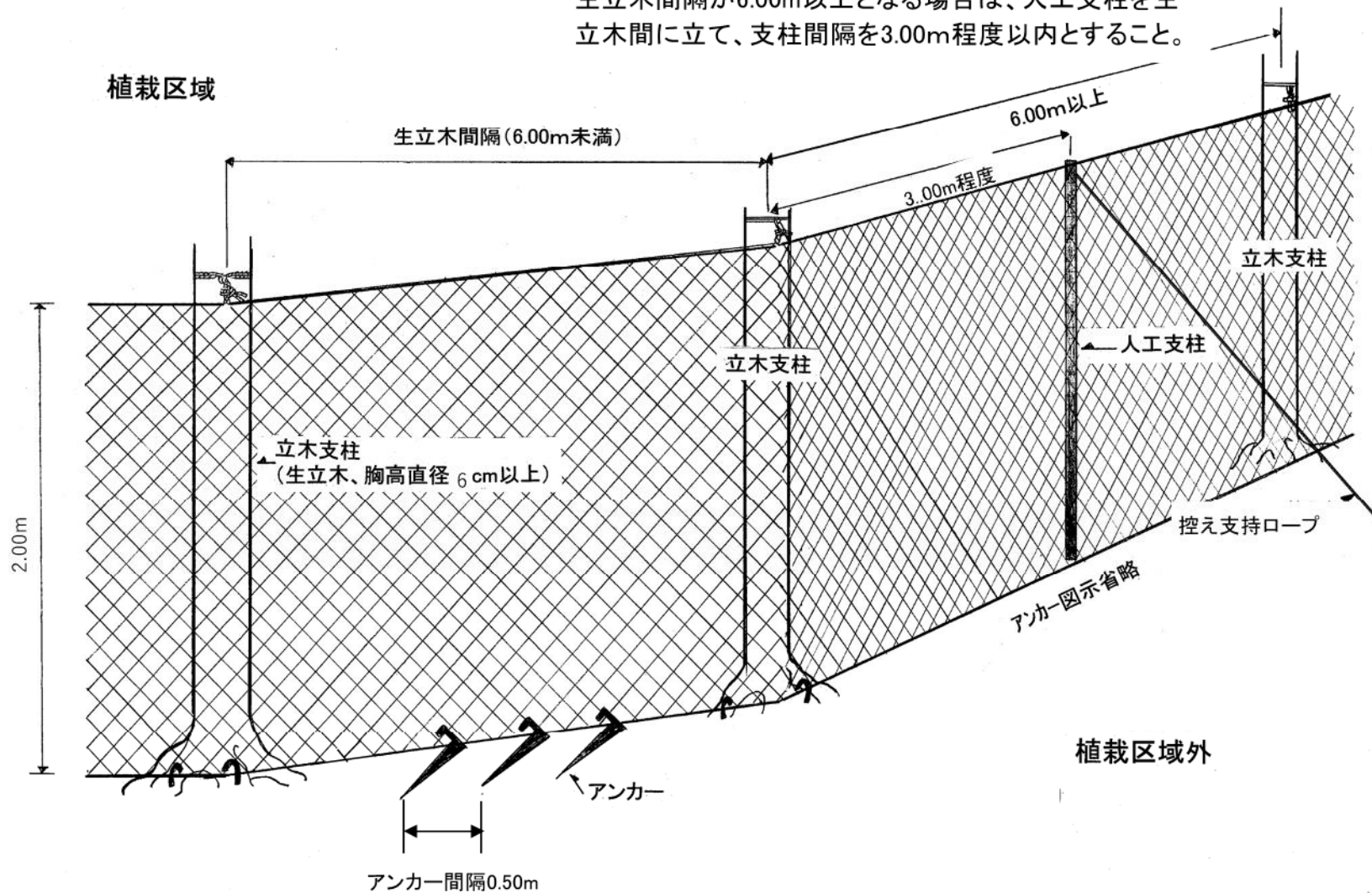


簡易扉標準図



防護柵設置図(立木支柱)

生立木間隔が6.00m以上となる場合は、人工支柱を生立木間に立て、支柱間隔を3.00m程度以内とすること。



立木支柱への防護柵上部ロープの結わえ方

「トックリ結び注意点」

- 1：まず、支柱に結わえ用ロープで水夫結びする。
- 4：結わえ用ロープは、支柱2周してロープ両端の長さがそれぞれ50 cm 程度残ること。
- 5：防護柵上部ロープに結わえ用ロープと交差させ輪を作り、防護柵上部ロープを輪に通す。



1：トックリ結び（高さ約210cm へ）



2：使用ロープφ 6mm 以上)



3：トックリ結び



4：トックリ結び

5：トックリ結び（防護柵上ロープ通す）



6：トックリ結び



7：トックリ結び



8：トックリ結び



9：トックリ結び



10：トックリ結び（完成）

防 護 柵 購 入 仕 様 書

1 防護柵資材の品質及び規格、数量は、次に示すとおりとする。

物品	品質及び規格	数量	備考
獣害防止ネット	獣害防止ネット 高さ：2m、長さ：50m/巻 ●上段（高さ：1m） 網目：50mm目 太さ：ポリエチレン400d/40本 （400d/60本又は200d/80本も可） ●下段（高さ：1m） 網目：50mm目 太さ：ポリエチレン400d/40本 （400d/60本又は200d/80本も可） ステンレス：0.47mm×2本 （0.29mm×4本又は0.19mm×8本も可） 同等品 「防護柵設置標準図」のとおり	33 巻	
張りロープ	PE製 径8mm 長さ：55m/巻 同等品	48 巻	
押えロープ	PE製 径6mm 長さ：55m/巻 同等品	32 巻	
支柱	コンポーズパイプ（FRP一般支柱） 同等品 内外層：ABSコーティング、中間層：FRP製 径：33mm又は38mm 長さ：2.4m なお、上記以外の材質であっても同じ規格で 同等の強度・性能を有しているものも可 「防護柵設置標準図」のとおり	290 本	支柱間隔3.0m セパレートタイプも可
支柱キャップ	カポッチキャップ 同等品 径33mm用又は38mm用 「防護柵設置標準図」のとおり	290 個	
アンカー（網用）	ABS樹脂製 4方向返し付、返し幅：10mm以上 長さ：400mm 同等品	1,800 本	0.5m間隔
控え支持ロープ	PE製 径6mm 長さ：55m/巻 同等品	20 巻	1ヶ所当り5m使用 支柱2～3本当り 1箇所
アンカー（支持用）	ABS樹脂製 4方向返し付、返し幅：10mm以上 長さ：400mm 同等品	220 本	
支柱（扉用）	カポッチ支柱 同等品 内外層：ABSコーティング、中間層：FRP製 長さ：2.1m 径：33mm又は38mm 長さ：2.1m なお、上記以外の材質であっても同じ規格で 同等の強度・性能を有しているものも可	6 本	

2 支柱は、積雪及び強風等により折損等を生じにくいものを購入すること。

3 物品購入にあたっては、上記1、2の条件及びこれと同等の規格及び品質を有するものを購入すること。

4 物品は指示した規格及び品質のとおり納入されたか監督職員の確認を受けること。なお、納品書類等は監督職員に必ず提出すること。

5 その他必要事項については監督職員の指示によること。

特記仕様書

- 1 豚熱（CSF）及びアフリカ豚熱（ASF）対策として、山林での作業用の靴の履き分けや下山時の靴及びタイヤの土落とし等、平時における感染防止対策に協力するとともに、野生いのししの死体発見時には管轄の自治体に速やかに通報すること。
- 2 アフリカ豚熱（ASF）対策として、野生いのししの感染が確認された場合の都道府県が実施する防疫措置に基づき、消毒ポイントにおける消毒の実施や帰宅後の靴底の洗浄消毒を行うこと。また、府県の行う立入制限等の防疫措置を踏まえ、契約約款第 20 条及び第 46 条に基づき事業を一時中止又は解除する可能性がある。
- 3 林道の施錠は、出入りの度に必ず行うこと。林道施設（暗渠、側溝、横断溝等）の保全に努め、当該施設を傷つけた場合は、請負者の責任により修繕すること。